

| 演習担当教員                 | 担当科目                   | 経済学専攻ではこんな研究や勉強ができます   |
|------------------------|------------------------|--|
| 1<br>アカン ヒデト<br>明石 英人  | マルクス経済学特講a・b           | カール・マルクス『資本論』の諸草稿や彼が作成した抜粋ノート(研究ノート)に注目して、彼の未完に終わった資本主義経済批判の全体像を探求します。その他関連する外国語文献にも多数取り組みます。社会経済思想の古典と格闘することを通じて論理的思考力を高め、資本主義経済がもたらした様々な現代的問題(とりわけエコロジー危機)について見る眼を鍛えていきたいと思えます。  |
| 2<br>シムラ ケン<br>西村 健    | ゲーム理論特講a・b             | ゲーム理論の上級テキストを読み進めながら、標準的概念や発展的理論について議論します。テキストの候補としては、Fudenberg and Tirole, "Game Theory" やOsborne and Rubinstein, "A Course in Game Theory" などが挙げられます(いずれも、大学院生向けの上級テキストです)。英語の文献を読むことが要求されるので、受講の際はご注意ください。  |
| 3<br>ホウチ ケンイチ<br>堀内 健一 | マルクス経済学応用特講a・b         | 『資本論』の理論的枠組みから現代資本主義を分析します。そのためには、『資本論』そのものの理解力と、現代資本主義のなかに適切な問題をたて、解いていく力をつける必要があります。通説に振り回されず、自分の頭で『資本論』を読むことが大切で、かといってマルクスの問題設定を離れて勝手に解釈するのも、また、なんでもマルクスに求めるのも誤りになります。手強い相手ですが、まずは素直に『資本論』とその諸草稿を読み、目の前の現実をどう理解するのかとも考えていきましょう。   |
| 4<br>マツイ リウヘイ<br>松井 柳平 | ミクロ経済学理論特講a・b          | ミクロ経済学をより専門的に学ぶことによって、世の中の人々の相互作用とそれがもたらす経済の動きを理論的に体系的に理解し、市民・生活者・職業人として社会で貢献することができます。また、人々が反応するインセンティブを理解すれば、人々の行動の予測に役立てることができ、さまざまな問題に対して、その問題を理解し、単なる理想論ではない現実的な問題解決、その効果と限界についての考え方も身につけることができます。  |
| 5<br>—                 | ミクロ経済学特講a・b            | 開講予定   |
| 6<br>ムラマツ カンジ<br>村松 幹二 | 法と制度の経済学特講a・b          | 「法と経済学」では、ミクロ経済学の意味決定理論とゲーム理論を用いて法制度の影響を分析し、また統計データを用いて検証することで、法制度が経済・社会に与える効果を分析します。講義の前半では、「法と経済学」の基礎的概念と分析手法を学び、後半では、特定の法分野を対象に「法と経済学」の手法を用いた研究論文を購読すると同時に、その法分野での分析を行います。例年、税務財政コースの受講生と税法に関する「法と経済学」による分析を行うことが多く、研究コースの受講生とは、知的財産や競争政策、会社法、労働法などについて「法と経済学」による分析を行っています。 |
| 7<br>ヤノ コウイチ<br>矢野 浩一  | 応用統計学特講、<br>応用マクロ経済学特講 | 前期の応用統計学特講では、データサイエンス(統計学・計量経済学)の経済・社会への応用やベイズ統計学について講義と演習(R/Pythonを用いた分析)を行っています。後期の応用マクロ経済学特講では、前期の学修を生かして、マクロ経済等の現実のデータを使った計量経済分析に講義と演習を通じて学びます。ただし、例年、内容は受講生の皆さんの要望を聞いて専門の範囲内で柔軟に対応しています。  |
| 8<br>ハジマ ユウキ<br>羽島 有紀  | 経済社会学特講a・b             | 経済的領域と非経済的領域とのあいだの相互関係に着目しつつ、環境問題や労働問題、社会福祉など社会問題に関する知識と分析のための理論を学びます。とくに、近年あらためて評価されつつある K.W.カップ の議論(社会的費用論など)を中心に、カップに影響を与えたとされる思想家や、同時代に互いに影響を与えあった経済学者の理論、その後の発展なども含めて扱います。  |

|    | 演習担当教員             | 担当科目       | 経済学専攻ではこんな研究や勉強ができます  |
|----|--------------------|------------|---|
| 9  | ミヤタ コレフミ<br>宮田 惟史  | 経済学史特講a・b  | 主に MEGA を用いながらマルクスの経済学説について研究を進めています。講義・演習では、受講者と相談の上で、資本主義経済の成立とともに発展してきた各々の経済学説について学びます。とりわけ経済学の原典(日本語や英語、ドイツ語の場合がある)の読解を中心に据えながら、発表・討論を行います。経済学史の研究を通じ、資本主義システムを分析するための力を養います。                                     |
| 10 | マサダ ミキト<br>増田 幹人   | 人口論特講a・b   | 少子高齢化、人口減少といった人口現象に対する社会経済の影響や、人口現象が社会経済に及ぼす影響について学びます。講義では、これらに関する論文や書籍を読むことにより、人口学の基礎と応用について学習します。演習では、人口現象と社会経済との関係について、計量経済学的手法に基づき、実際にデータを用いて実証分析を行います。具体的な内容については、受講生の皆さんと相談の上で決めることとします。                       |
| 11 | アサダ シンジ<br>浅田 進史   | 経済史特講a・b   | 19世紀末・20世紀初頭の世界経済、とくにドイツ・東アジア間の近現代経済関係を中心に研究しています。講義・演習では、経済史に関する専門的なテキストを題材に発表・討論を行います。英語・ドイツ語文献読解を希望する受講生にも対応しています。また、基礎的な知識を必要とする受講生には、レベルに合わせたテキストを選んで発表・討論を行っています。2022年度は在外研究を予定。                                |
| 12 | ワタナベ ケイイチ<br>渡邊 恵一 | 日本経済史特講a・b | 担当者自身は、輸送・流通の視点に留意した近現代日本経済史・経営史の研究を進めています。従来から別個に扱われがちな産業史と交通史を統合した理解を学界へ問題提起するべく、実証密度の高い研究を積み重ねているところです。他方で、日本経済史は、対象となる研究領域が広範囲にわたり、きわめて総合性の高い学問分野です。いかなる経済事象にも歴史的経緯は存在しますので、自分だけのオリジナリティある「〇〇史」を究めてみたいという方を歓迎します。 |
| 13 | ミズノ ショウコ<br>水野 祥子  | 西洋経済史特講a・b | I・ウォーラーステイン の近代世界システム論や K・ポメラントフ の大分岐論などの研究成果を踏まえて、世界経済の誕生や経済格差の形成をめぐる多様な歴史的解釈について学びます。また、ヨーロッパが世界各地に及ぼした影響を与えたか、逆にヨーロッパが及ぼした影響を受けたのかを双方向的に見ていきます。授業中に配布する資料(英語および日本語)を読解し、内容を報告することが求められます。                          |
| 14 | イノウエ トモヒロ<br>井上 智洋 | 経済政策論特講a・b | 大学院レベルのマクロ動学モデル(DSGEモデルなど)を用いて、経済成長理論及びニューケインジアン理論を学習します。また、そうした理論に基づいた分析によって、どのような成長政策、金融・財政政策が望ましいのかを明らかにします。数学をかなり用いる講義となります。  |
| 15 | ミゾテ ヨシカズ<br>溝手 芳計  | 農業政策論特講a・b | かつての農業では、経営が保有する土地と労働力が決定的に重要でしたが、現代の農業は川上の農業供給産業と川下の食品産業の双方の農外大資本(アグリビジネス)から大きな影響を受けています。授業では、こうした事実を念頭に置いて、政治経済学的視点から現代農業論を構築しようとしている欧米の潮流について検討するとともに、農業・食料・環境の現状を踏まえた農業政策のあり方を考えます。【2023年度は休講】                    |

|    | 演習担当教員              | 担当科目                                | 経済学専攻ではこんな研究や勉強ができます  |
|----|---------------------|-------------------------------------|---|
| 16 | シロタ ジュン<br>代田 純     | 金融論特講a・b                            | 金融に関する理論的あるいは実証的研究を行う。担当者は、現在、金融の二重構造に関し、研究を進めている。金融の二重構造論については、今日、都市銀行の貸出に占める中小企業等貸出比率は概ね60%前後であり、かつてとは様変わりした。しかし、中小企業といっても、都銀の貸出先の中小企業は東京を中心とする都市圏が90%以上であり、地域圏はほとんど含まない。都銀の中小企業向け貸出は、地域圏あるいは地域経済から乖離している。            |
| 17 | エグチ マサタカ<br>江口 允崇   | 財政学特講a・b                            | 財政政策および政府債務の累積が経済に与える影響について、理論的・実証的に分析する方法について学びます。理論面では、大学院レベルの動学的なマクロ経済学や、公共経済学の理論について、標準的なテキストを用いて輪読形式で学びます。実証面では、経済問題における因果推論のやり方について、Matlab、Python、Rといったプログラミング言語を用いて実践的に学んでいきます。2022年度は在外研究を予定。                   |
| 18 | —                   | 社会政策特講a・b                           | 開講予定  |
| 19 | スズキ ノブエ<br>鈴木 伸枝    | 公共経済学特講a・b                          | 担当者自身は、囚人のジレンマの研究(理論・実験)を中心に行っています。実は、「環境問題」「モラル・ハザード」「公共財供給」といった典型的な公共経済学の問題の、本質が囚人のジレンマというケースが少なくありません。講義・演習では、教科書を輪読し標準的な大学院レベルの公共経済学の知識の習得を目指すとともに、受講生の修士論文のテーマに合わせてやや特殊なトピック(過去の例では「脱税と社会的規範」)や最先端の研究の紹介も盛り込む予定です。 |
| 20 | タチ ケンタロウ<br>館 健太郎   | 産業組織論特講a・b                          | 産業組織論特講a・bでは、企業の競争戦略や戦略的提携など個別の産業における企業間の競争と協力、さらには規制や補助金が市場に与える影響などについても扱います。これらを分析するために必要となるマイクロ経済学やゲーム理論についての理論的研究もあわせて学習します。最終的に特定の業界について分析するためのスキルを身につけることを目標とします。2022年度は在外研究を予定。                                  |
| 21 | ホウジョウ マサカズ<br>北條 雅一 | 教育経済論特講a・b                          | 教育を通じた人的資本蓄積について、主に実証的な研究をおこなっています。講義では、教育経済学だけでなく、隣接する教育社会学や労働経済学の文献を通して、教育政策の効果や教育格差の問題について学びます。演習では、統計処理ソフトウェア(RやStata)を用いた統計分析の手法を学びながら、その手法を実際の教育データに適用した実証分析をおこないます。講義や演習の内容は、受講生の要望に応じ柔軟に対応します。                  |
| 22 | —                   | 中小企業論特講a・b                          | 開講予定  |
| 23 | フクシマ ヨウジ<br>福島 浩治   | 国際経済論特講a・b、<br>途上国経済論、<br>東南アジア地域研究 | 国際経済論特講では、グローバリゼーションを鍵概念に世界経済の構造的特質を把握することに主眼を置きます。戦後国際経済体制に構造変化を促していく史的プロセスを多角的に検討することから、グローバリゼーションの時代へと至る国際経済の理論・政策・歴史の学術的理解が身につきます。グローバリゼーションの底流を可視化し、今日の世界経済を深く読み解いていく批判的思考力を磨きます。                                  |

|    | 演習担当教員              | 担当科目               | 経済学専攻ではこんな研究や勉強ができます  |
|----|---------------------|--------------------|---|
| 24 | ヨバシ マサ<br>小林 正人     | 日本経済論特講a・b、産業論、技術論 | 戦後の日本経済を大きく分けると、高率な経済成長、大いなる設備投資、雇用の安定、人口増加の時代から、(バブル経済の崩壊をはさみ)低い成長率、企業の海外流出(グローバル化)、雇用の不安定化、人口減少の時代へと移りました。このトレンドの大きな変化を見すえながら、「経済」のあるべき姿、人々が「豊かになる」ために必要なことを考えていきます。  |
| 25 | チョン チャンヨン<br>鄭 章淵   | アジア経済論特講a・b        | 東アジアの経済発展過程と開発経済学の関連諸理論について解説します。ここでいう東アジアとは北東アジアと東南アジアを併せた広域を指します。なかでも典型的な輸出主導型工業化を遂げた韓国をはじめとするアジアNIEs(新興工業経済地域)を取り上げ、その経済発展の要因と矛盾の双方の視点から分析を試みます。経済開発過程における政府および民間資本が果たした役割に注目し、RCEPをはじめとする東アジア地域経済協力に関しても言及します。【2023年度は休講】 |
| 26 | オウ エリン<br>王 穎琳      | 中国経済論特講a・b         | 中国が改革開放政策に転じてから、40年の時間が経ちました。今、中国は経済規模が拡大し続け、世界一の生産力を有している一方、環境問題、格差問題、人口問題、医療問題、社会保障などの問題を抱えています。本講義では、中国が抱える不均衡発展の歪みや構造矛盾を明らかにし、中国経済の影について実証的に考えます。自分の考えを持ちながら中国経済の問題点、全体像、最近の動向について学んでいきます。2022年度は在外研究を予定。                 |
| 27 | オグラ ショウロウ<br>小倉 将志郎 | 現代アメリカ経済論特講a・b     | 1970・80年代以降に世界規模で生じた経済・社会の大きな変化、具体的には「グローバル化」、「サービス化(産業構造の変化)」、「情報化」、「新自由主義」、「成熟化」、そして「金融化」などに焦点を当て、それらとアメリカがどのように関わっているのか、具体的にそれらがどのようなプロセスで展開し、結果としてどのような事象が生じているのかといったことから、歴史、理論、実証の各アプローチから学んでいきます。                       |
| 28 | タナカ リョウイチ<br>田中 綾一  | ヨーロッパ経済論特講a・b      | EUとその加盟国を中心にしつつ、ヨーロッパ全体を対象とします。経済危機や移民急増に直面する中で、「統合とは何か」「ヨーロッパとは何か」といった本質的な問題が投げかけられるようになっており、ヨーロッパについて学ぶ重要性はますます高まっています。やや高度なテキストを用いながら、ヨーロッパの現状と課題について学びましょう。   |
| 29 | ヤマナカ タツヤ<br>山中 達也   | 新興国経済論特講a・b        | 新興国市場として今後の「経済成長」が期待されながらもテロや紛争に揺れる中東・北アフリカ(MENA)地域について、世界経済および現地の視点から学んでいきます。とりわけ同地域において頻発する争いの経済的要因や根深い格差の構図・背景に関して、国内外の優れた先行研究を通じて考察します。具体的には、各国の貿易、投資、経済政策、産業、労働市場などの変遷を比較検討することで、それぞれ特有の課題と同質化された問題を析出します。               |